

# maimaiko

特集「おもてなし」

館長コラム

グッズ紹介

【まいまいこ】

ぐるぐるとまわる、という意味の讃岐の方言「まいまいこする」からつけました。

高松市資料館だより

あなたと  
5館を結ぶ情報誌  
第7号

石の民俗資料館・歴史資料館・香南歴史民俗郷土館・讃岐国分寺跡資料館・高松市資料館



香南歴史民俗郷土館



菊池寛記念館



おもてなし。



讃岐国分寺跡資料館



歴史資料館



石の民俗資料館

香南歴史民俗郷土館にはゆったりとくつろげる「おもてなし空間」の図書室があります。

郷土館内に併設している図書館で、県史や市史などの歴史書や郷土に関する本を中心に1万冊の本を収蔵しています。歴史関係の専門書以外にも、児童本や一般書・ベストセラーなど人気本も数多く備えています。

図書館では小・中学生が夏休みの宿題や調べ学習をしたり、一般の方も研究の資料を探したり読書を楽しんでいらっしゃいます。利用者の方からは「手に取りやすい場所に読みたい本が見つかるわ」「この本読みたかったのよ」と好評なんです。閲覧だけでなく、貸し出しも可能です。

インターネットや電子辞書などで本や文字が調べられるようになり、本を読む機会が少なくなっています。活字離れが進むこの時代ですが、郷土館であなたのお気に入りの本を探して、ゆったりとした時間を楽しみませんか？あなたの読みたい本もきっと見つかるはずです。

本の貸出 一人5冊まで 貸出期間2週間  
\*原則として香南歴史民俗郷土館の図書カードに登録された方に限る

**香南歴史民俗郷土館**  
高松市香南町由佐 253-1  
Tel.087-879-0717  
開館時間：9:00～17:00  
月曜休館（休日の場合は翌日）



石の体にズボンを着いて、頭にカラフルなアンテナをたてているのは誰・・・？

それは「アン・ツー・ゴ」！

アン・ツー・ゴは石匠の里公園のキャラクターです。名前の由来はアン＝アンテナ（情報をキャッチする）、ツー＝ツバキ（旧牟礼町の町花）、ゴ＝五剣山からきています。毎日、芝生広場でお客様をお出迎えしている彼は、牟礼・庵治両町で採れる庵治石を使用し、地元の石工さんご協力のもと職員が制作したものです。

階段を上って資料館にお入りいただくと、エントランスホールから高松市街を見渡すことができます。天気の良い日は高松空港まで眺望できるほどです。テーブルとイスを用意していますので、ゆっくりと景色をお楽しみください。テーブルにアン・ツー・ゴが隠れているので、探してみてくださいね。

**石の民俗資料館**  
高松市牟礼町牟礼 1810  
Tel.087-845-8484  
開館時間：9:00～17:00  
月曜休館（休日の場合は翌日）



菊池寛記念館では、子供から大人まで楽しんでいただける「菊池寛紙芝居」を作成しています。主に校外学習の児童や団体のお客様が来館されたときに使用し、大変好評をいただいています。

菊池寛は作家として数多くの文学作品を残し、また、『文藝春秋』の創刊、芥川賞・直木賞の創設などにも貢献しました。紙芝居では、そのような寛の功績を紹介するとともに、人間像についても触れています。若いころより苦労を重ねたことやマント事件の説明などを通して、「努力家」「勤勉」「親友思い」などの人柄を感じ取っていただいているようです。

また、補足資料として、マントなどの小道具や作品紹介のパネルも用意しています。更に、最新の芥川賞・直木賞の受賞者や受賞作品の紹介も行っています。

この「菊池寛紙芝居」は、ご希望があれば少人数でも対応いたします。内容、時間などに関してもご要望がありましたら、お気軽にご相談ください。

**菊池寛記念館**  
高松市昭和町 1-2-20  
（サンクリスタル高松 3F）  
Tel.087-861-4502  
開館時間：9:00～17:00  
月曜休館（休日の場合は翌日）



讃岐国分寺跡資料館では、来館者が少しでもリラックスしながら観覧していただけるよう、館内 BGM にサヌカイト（讃岐岩）で作られた楽器による演奏曲を流しています。

香川県でサヌカイトといえば「カンカン石」の名で知っている方も多いのではないのでしょうか。このサヌカイトの奏でる音は、音域が広く、リラックス効果があるといわれる高周波音が含まれていることがわかっています。多くの岩石の場合、結晶粒が大きく、叩いても音波が吸収され、よい音はでませんが、サヌカイトは非常に微細で緻密な岩石であることから、音波の吸収が少なく、内部反射が強まり美しい音が出るとわれています。

讃岐国分寺跡周辺の山でも産出するサヌカイトは、旧石器時代から石器の上質な材料として用いられており、古代の人々もこの美しい音を聞いていたかもしれません。資料館では、サヌカイトを音階順に並べた石琴を叩いてみることもできます。来館の際にはぜひ一曲を奏でてみてはいかがでしょうか。

**讃岐国分寺跡資料館**  
高松市国分寺町国分 2177-1  
Tel.087-874-8840  
開館時間：9:00～16:30  
月曜休館（休日の場合は翌日）



みなさまのお越しをお待ちしております。

「いらっしゃいませ。ようこそ歴史資料館へ。」当館の案内板には見慣れぬ達筆フォントが並びます。それもそのはず、なんと、実はすべて館長の手書きだからなのです。

案内の字に引き寄せられるようにご来館いただいているお客様の多いことおおいこと！！

グッズ展開のご要望も多く、ノベルティー（おまけ）として館長特製の格言絵はがきが登場した際には、大好評を博しました。

他の大きい施設では見られない、温かさを感じていただけるおもてなしと自負しております。

字のもつ雰囲気と同様に、親しみのもてる資料館を目指しておりますので、みなさまお誘いあわせの上、どうぞお気軽に、まー、いっぺん、きてんまい。

**高松市歴史資料館**  
高松市昭和町 1-2-20  
（サンクリスタル高松 4F）  
Tel.087-861-4520  
開館時間：9:00～17:00  
月曜休館（休日の場合は翌日）





# グッズ紹介

お問い合わせは、各館へどうぞ。

## 菊池寛イラスト入り瓦せんべい

菊池寛記念館

菊池寛記念館のオリジナルグッズに、新しい商品が加わりました。宗家くつわ堂と菊池寛顕彰会との共同製造により、菊池寛をイラストにした「菊池寛イラスト入り瓦せんべい」です。デザインは、菊池寛の代表作『父帰る』『藤十郎の恋』の文字が入ったものと、菊池寛が同郷の人かどうかを見分ける際に使ったとされるセリフ「古天神はどっち向き？」の文字が入ったものとの2タイプです。

この商品は注文（10枚以上）をいただいてから製造します。ぜひ貴重なお土産品としてお求めください。



## 鴟尾（しび）

讃岐国分寺跡資料館

讃岐国分寺跡資料館では、1/10の大きさの瓦製『鴟尾』を販売しています。讃岐国分寺跡のこれまでの発掘調査において、鴟尾は出土していないため、唐招提寺金堂に現存する奈良時代の鴟尾や、ほかの遺跡から出土したものを参考に作ったものです。鴟尾とは、古代の宮殿や寺院の建物の大棟（大棟）と呼ばれる屋根の最も高い部分の棟両端に据えられていた飾りで、飛鳥時代に日本へ伝わりました。これが後に、城郭建築でみられる魚形の鯨（しん）へと変わっていきます。

販売中の鴟尾は、史跡内に設置した1/10伽藍配置模型の金堂にも据えていますので、見学の際にぜひ探してみてください。

玄関の鍵置きに。若玉のをせてみたり…。  
使い道は無限大です。



# 館長コラム

第7号は、なんと3人登場！

私は、平成23年度から歴史資料館職員皆様の仲間入りをさせていただき、本市の歴史と文化を学べる施設で、郷土の文化遺産を継承しつつ、市民の皆様に楽しく学んでいただけるよう取り組んでいるところです。

消防職員として定年退職後、今までとまったく違った景色を見ることになりましたが、以前から好きで習っている書道を生かし、それぞれの展示に少しでも役に立てばと思って励んでいます。

この歳になって「少年易老学難成 一寸光陰不可軽・・・」や「鉄は熱いうちに打て」という諺で、もう少し若いうちから幅広く学んでいけばよかったのになぁ・・・と感じています。地元の歴史や文化についても知っているようで聞かれるとわからないのが現実です。

今年はちょうど瀬戸内海国立公園指定80周年記念の年でもあり、関連した希望の持てる楽しい企画展を開催し、出来るだけ多くの市民の方にご覧いただけるよう頑張りたいと思います。



歴史資料館 六田豊久

香

香南歴史民俗郷土館 香川 隆



私は、家の中で過ごすよりは外に出るのが好きな方で、四国八十八ヶ寺巡礼を3回巡ったほか、スイセン・梅・桜・紫陽花・ヒマワリ・コスモス等、季節の花を観るために妻と一緒に、ドライブがてら県内外に1日掛けて出かけています。それ以外の休日には、あちこちのカフェでモーニングやランチを楽しんでいます。元来、花の観賞やカフェ通いが趣味だった訳ではなく、長年かけて妻に嫉けられた結果であります。最近は、日曜日に孫達（2歳♂・1歳♀・4か月♀）が集まってくれるので、遠出をする機会が減った分、孫たちと楽しいひと時が過ごせており、十分癒されています。

さて、香南歴史民俗郷土館は、民俗展示室・歴史展示室・図書室・市民ギャラリー・研修室を設けており、市民ギャラリーでは随時企画展を開催しております。私は、郷土館と市役所香南支所の兼務をしていますので、週に1回程度しか顔を出せていませんが、お客様を気持ち良くお迎えできる様、職員共々頑張っていますので、皆様是非お越しください。

ユネスコが支援し“大地の公園”といわれるジオパークは、大地と人間との関わりをテーマとした地域まるごとの公園です。富士山の世界文化遺産登録ほど華々しくはありませんが、四国でも、3年前の室戸の世界ジオパーク認定に続き、昨年、西予地域が日本ジオパークに認定され、世界ジオパークは全国で6地域、日本ジオパークは33地域になりました。地元でも香川大学の長谷川教授や経済団体等が今、讃岐の個性的で多様な地質遺産や文化・産業を世界ジオパークにしようと取り組んでおられます。

私たちは、讃岐平野のお結び山や屋島などの造形美、庵治石等、数々の石材製品を風景の一部として見過ごしていますが、県外の人には、その魅力が強く感じられるようです。

全国初の国立公園として指定され、今年で80周年を迎える瀬戸内海と同様、私たちが普段気づかない郷土の長所を再認識すれば、讃岐ジオパークの実現も近いと思います。

石

石の民俗資料館 白井文夫

